

しっぽの役割

ただ、かわいいだけじゃないんです！
猫のしっぽには、こんな大切な役割があります。



体を保温する

寒いとき、猫は体を丸めてしっぽに顔を埋めるようにして眠ります。細いしっぽではあまり防寒になりませんが、メインクーンやノルウェージャン・フォレスト・キャットなど寒い地域の長毛種は、いかにも温かそうなふかふかしっぽを持っています。



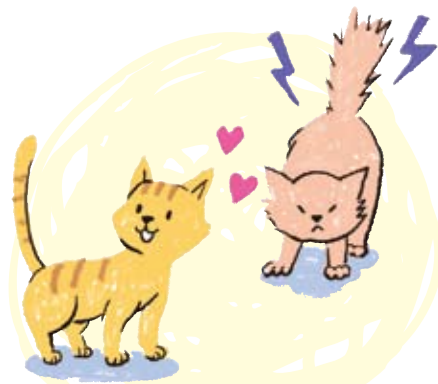
体のバランスをとる

しっぽは体のバランスをとる働きをしています。猫が走るとき、ジャンプするとき、高所から飛び下りるときなど、舵取りの役割をしているのです。



マーキングする

額、あごの下、口の脇、肉球…など、猫は体のあちこちにおいを出す腺を持っていますが、しっぽにある皮脂腺からもおいを発します。猫が家具や飼い主さんにしっぽを巻き付けるのは、においをこすりつけるマーキング行為です。



感情を表現する

甘えたいときには、しっぽをピンと立ててすり寄ってきたり、威嚇するときは、しっぽの毛を逆立てて膨らませたり…と、しっぽには、その時々猫の気持ちがとてもよく表れます。

猫のからだ
セミナー

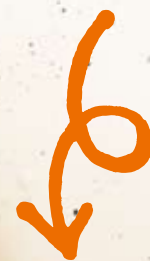
もっと知りたい！

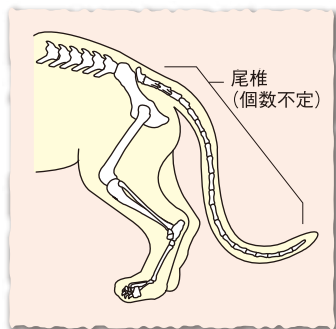
猫のしっぽの秘密

人になくて猫にあるもの。しなやかに動かして、
飼い主さんに雄弁に語りかけてくる「しっぽ」。
飼い主心をくすぐる猫のチャームポイント、
「しっぽ」をクローズアップ！



しっぽに注目！





しっぽの構造

小さな椎骨がいくつも連なってできています。

猫のしっぽは、「尾椎」という小さな骨が連なってできています。尾椎の数はしっぽの長さによって異なり、長いしっぽの場合は16~21個あるといわれています。

しっぽの雑学

いろんな役割のある「しっぽ」、断尾したり、しっぽのない猫種は大丈夫？

猫のしっぽの形や長さは違っても、その機能や役割は同じ。しっぽがなくても不足する部分は他が補って、生活に支障を来すことはないようです。家畜化され、狩りをしない現代の猫にとっては、バランスをとる機能も防寒機能も、かつてほど必要ではないのかもしれませんが。ケガで断尾した場合も同様です。

ただ、しっぽがないと、飼い主さんとのコミュニケーションがとりにくいかも。しっぽ以外の動きに注目して、愛猫の気持ちを読み取ってあげましょう。



日本に短尾猫が多いのは、“化け猫”伝説のせい!?

日本に短尾が多いのは、古くから伝わる「猫股」伝説のためとか。猫が老いるとしっぽが二股に割れ、化け猫になるといわれ、長いしっぽの猫が嫌われました。そのため、江戸時代中期、短尾の猫が好んで繁殖され、短尾が増えたという説も。

今では、日本由来の短尾種は、ジャパニーズ・ボブテイルとして有名です。



“尾なし”マンクスは、後ろ足でバランスをとる!?

マンクスという猫種は、尾がほとんどないのが特徴です。なかでもランピーと呼ばれる種類は、まったくしっぽがなく、しっぽが始まる部分がくぼみになっています。

マンクスは前足に比べて後ろ足が長く、まるでウサギが跳ねるような歩き方をします。しっぽがないぶん、体のバランスをとるために、後ろ足が発達したといわれています。



しっぽが表す気持ち

ホントに表情豊かなしっぽ。愛猫のしっぽの動き、観察してみて!



甘えたいの

しっぽをピンと立てるのは、うれしいときや甘えたいとき。



こわいよお~

しっぽを足の間にしまうのは、こわいとき。うずくまって体も小さく見せ、「攻撃しないで」アピール。



めんどくさ~い

寝ているときに名前を呼ばれて、しっぽの先だけ小さく動かすのは、聞こえているけど、起きるのがめんどろな心境のとき。



やる気かつ!

しっぽの毛を逆立てて膨らますのは、恐怖心を感じていたり、相手を威嚇するとき。



イライラ...

しっぽを左右にパタパタ大きく振っているときは、不機嫌モード。